



## 石油需要「回復しつつある」、アジアでコロナ拡大も価格上向く ＝バークレイズ

〔21日 ロイター〕 - 英金融大手バークレイズは21日、原油需要の段階的な回復が、ほぼ軌道に乗っているとの見解を示した。経済活動の再開が背景にあるとしている。アジアの新型コロナウイルス感染者数増加のほか、イランによる原油供給再開の可能性はあるものの、原油価格は引き続き上向いていると述べた。

バークレイズは「アジア地域で移動制限措置が延長されれば、石油需要の回復は若干減速するかもしれない。世界各国での新型コロナのワクチン接種進展がおしなべて前向きな結果をもたらしていることを踏まえれば、長期的に需要が停滞することはなさそうだ」と指摘した。

バークレイズは、英北海ブレントと米WTI原油の今年の平均価格をそれぞれ1バレル＝66ドル、62ドルと予想。ブレントはバレル当たり5ドル、WTIは6ドル上昇すると見通した。

同社は需給に関するレポートで、イランの核合意再建に向けた交渉が早期合意に達した場合の今年下半期の原油価格の見通しについて、若干の下振れリスクがあると分析。「こうしたシナリオは、石油輸出国機構（OPEC）と非加盟国で構成するOPECプラスによる協調減産の段階的な規模縮小につながりかねず、原油相場が軟調になる可能性がある」と加えた。



## 米国の石油・ガス2社が合併へ、「サプライズ」で株価下落

[ニューヨーク 24日 ロイター] - 石油・ガス生産のキャボット・オイル・アンド・ガスとシマレックス・エナジーは24日、合併に合意したと発表した。企業価値約170億ドルの全国企業が誕生する。

シマレックスの株価は7.2%安の66.07ドルに、キャボットの株価は6.9%安の16.59ドルに下落した。

少なくとも2人のアナリストが、この合併は「サプライズ」だったとの見解を示した。

キャボットは米国北東部にマーセラス・シェール層のガス田を、シマレックスはテキサス州西部に油田を持ち、合併後の企業はこの双方を有することとなる。

米国のシェール生産企業はこのところ、コスト削減の最適化や投資家誘致のため、一つの地域に集中する傾向がある。ただ、他業種の動向や環境問題を考慮すると比較的収益が低く、投資資金の流出に歯止めがかかっていない。

合併条件によると、シマレックスの株主は1株につき4.0146株のキャボット株を取得し、合併後の株式の50.50%を保有することになる。シマレックスの企業価値評価は74億ドル、1株あたり71.50ドルとなり、21日の終値に対するプレミアムは1%未満にとどまる。

キーバンクのアナリストは、この合併でシマレックスがガス生産企業となり、石油価格の上昇による恩恵が得られなくなることに懸念を表明。また、合併のプレミアムの少なさも指摘した。

# バイオマス添加剤を開発

## 加藤産商 P E、P P に対応

加藤産商は、パートナー企業と共同で新たな樹脂添加剤を開発した。汎用樹脂に混練し植物由来成分の含有率向上に寄与するバイオマス添加剤で、少量混合でバイオマス度の向上を図ることができる。ポリエチレン（PE）およびポリプロピレン（PP）の両方に対応する点を強みとしており、今夏にも量産に着手する考え。樹脂製品における環境負荷削減が図れる特性を生かし、SDGs対応商材として提案していく。

### 今夏にも量産化へ

加藤産商は材料提案型商社をキーワードに、関連の加工製造部門の充実を図り、顧客ニーズを深掘りしている。とくに、国内ではソリューションビジネスに力を入れている。2019年10月に発足させたソリューションプロダクトチームでは、生産現場向けの意味合いが強い商材をメインに取り扱いつつ、新商材開発

も積極化している。

同チームでは、その一環として新たな樹脂添加剤「ONEバイオ」を開発した。イチネンケミカルズと共同開発したもので、植物由来のバイオマス添加剤。同製品を樹脂に混練することで、植物由来成分の向上に寄与する。



少量混合でバイオマス度の向上が図れる「ONEバイオ」

ONEでは、約80%が穀物由来のバイオマス成分。日本の樹脂市場の約半分を占めるPEおよび

PPについて、物性をほとんど変えずに対応する点特徴とする。

これまで植物由来成分の含有率向上の添加剤は少なく、なかでも汎用樹脂のPEやPPの両方に対応した製品は少なかった。同製品はとくにPPの植物由来成分の添加で有効性を発揮する点を強みとする。

同製品の活用により、樹脂製品について少量混合でコスト見合のバイオマス化が可能となる。これにより樹脂成形領域でのSD

Gsソリューションとしての応用が見込め、混練時のパーセンテージを調節し成形製品におけるバイオマスマークの取得にも対応できる。

なお原料である穀物の半加工品を加藤産商が調達し、製造をイチネンケミカルズのグループ工場が担う形で今夏から量産を行う計画。そして両社が既存顧客を中心に、製品提案を行い、販路を広げている。同社では樹脂成形品メーカーや包装資材メーカーのほか、空気清浄機のフィルター用不織布メーカーに向けた提案も行う。引き続きイチネンケミカルズと協力しグレイド充実を図るほか、新製品開発も進める方針。

# アクリル酸エステル最高値

## 再び3000ドル超す可能性

アクリル酸エステルのアジア市況が過去最高額を更新した。需要がコロナ禍以前の水準に回復してきたなか、韓国や欧米、サウジアラビアなどの主要企業で操業停止が相次ぎ、域内企業に買いが殺到。オキシアルコールなどの品薄高も相まって、アクリル酸ブチルで1トン当たり3000ドル台に乗せた。一度反落したが、3000ドル近辺で小康状態となり、「再び3000ドル台に乗せる可能性もある(市場関係者)。

アクリル酸エステルは、昨年後半から中国を中心に運葉・自動車向けの需要が回復し始めたため、市況が上昇。さらに、秋にはサウジアラビア・タスニ、韓国LGケミカルが設備トラブルで稼働を停止。年末には独BASFが原料ノルマルブタノールの不足を理由に操業を休止、南アフリカ・サノールも設備不良で稼働を止めるなど、主要企業が立て続けに供給をストップした。

この影響で、今年に入ってから欧米などから中国品を中心とするアジア玉に買いが殺到。中国では内需が好調なことや、輸送の遅延も相まって輸出向けの手当てが追いつかなくなっている。原料も、オキシアルコールやノルマルブタノールの大手プラントトラブルによる品薄高などが重なり、アクリル酸エステルは年初から続騰。1月の1500ドル前後から3月には

3000ドル台に達した。足元では3000ドル近い

辺で小幅の上下を繰り返している。複数企業の操業停止影響が尾を引き、各社ともフル操業でないことや、ノルマルブタノールが統伸するなど原料市況に改善見通しが立たないことから短期的に再び3000ドルに達することもありそう。

### 価格修正 ダイシエースト

(5月17~21日)

とくに表記のないものは1キログラム当たり

- アクリル酸エステル・三菱ケミカルが5月21日からアクリル酸ブチル、アクリル酸2エチルヘキシルを10円以上値上げ。
- オキシ誘導品・JNCが5月21日からノルマルブチルアルデヒド、インブチルアルデヒド、オクタノール、ノルマルブタノール、インブタノール、CS-12、CS-16、オクチル酸、イン酸イソブチル、酢酸ブチル、酢酸イソブチル、酢酸イソプロピルを25円以上値上げ(ロジウム触媒費、ユルチリチー費、修繕費、物流費増加分として15円以上を含む)。
- 酢酸ナトリウムなど・大東化学が5月20日から無水酢酸ナトリウム、結晶酢酸ナトリウムを25円以上、サノールを32・42を25円以上、酢酸カリウムを20円以上、酢酸カリウム液を14円以上、酢酸カルシウム(カルプレシユ)を23円以上、酢酸カルシウム液を10円以上、酢酸アンモニウムを23円以上、酢酸マクネシウムを18円以上値上げ。
- インキ・接着剤・東洋インキが6月1日からクラビア・フレキシインキの油性剤を60円、水性を50円、硬化剤を50~130円、ラミネート接着剤の主剤を50円、硬化剤を50~130円値上げ。
- 溶融繊維・三菱ケミカルが6月1日から100円値上げ。
- MMA・住友化学が5月26日からメチルメタクリレート(MMA)モノマーを28円値上げ。
- 塩化ビニル樹脂・カネカが6月15日から10円以上値上げ。
- エビクロルヒドリン・大阪ソーダが5月21日からエビクロルヒドリンとアクリルクロライドを20円以上値上げ。
- ポリフェニレンサルファイド・東レが6月1日からトレリナのコパウンドグレードを50円、ベースポリマーを80円値上げ。

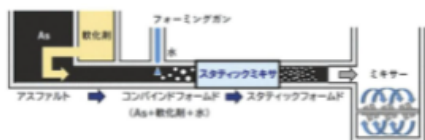
### プラ添加剤 20%値上げも

BASF

BASFは、日本国内でプラスチック添加剤を最大20%値上げする。主要原材料の大幅なコスト変動、海上運賃の急騰が主な背景。5月21日からだが、有効な契約がある場合はその内容が優先される。

## 世紀東急工業

### 再生アスファルト混合物のフォームド技術改良／作業性など向上



概念図

世紀東急工業は、加熱したアスファルトに水を加えて発泡させ、混合物製造時の混合性能を高めるフォームド技術「マイブル-eco」を改良した。泡を微細にする独自開発のスタティックミキサーで発泡効果の持続力を向上。再生アスファルト混合物の作業性や締め固め性能を高めた。

再生アスファルト混合物の作業性や締め固め性能を高めた。

フォームド技術は加熱したアスファルトに水や水蒸気を混ぜ、アスファルトを発泡、膨張させる技術。通常は再生アスファルト混合物の製造時にアスファルトだけをフォーミングし再生用添加剤（軟化剤）は別投入している。

同社はあらかじめ再生用添加剤とアスファルトを混合しフォーミングガンで泡立たせる技術を開発した。同社は泡立たせた直後に泡を微細化するスタティックミキサーを通過させ発泡効果の持続性を高めた。機械的に微細化するため経済性に優れる。

製造温度を下げることができ、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量とアスファルトヒュームの影響を低減する。長時間運搬時の作業性や締め固め性を確保できるため、従来に比べ広域に運搬できるメリットもある。

同社は佐野混合所（栃木県佐野市）と佐倉混合所（千葉県佐倉市）、南相馬合材工場（福島県南相馬市）に設備を導入済み。今後は全国のプラントに水平展開する方針だ。



## 会津スマートオフィス開設

### DX活用、SDGs推進

コスモ

コスモ石油マーケティングは、福島県会津若松市のICTオフィスビル「スマートシティAiCT（アイクト）」の隣接エリアに会津イノベーションオフィスを開設した。

加。エネルギー・モビリティ領域を事例分析して地域ニーズを把握し、事業モデルへの反映を目指す。DX（デジタルトランスフォーメーション）を用いた生産性向上・市場変化への対応、SDGs（持続可能な開発目標）の推進を図り、ニーズの高まりが見込まれるモビリティ、再生可能エネルギー、分散型エネルギーなどの分野で地域活性化への貢献や、次世代事業につながるプロジェクトを検討していく。

スマートシティAiCTは、最先端企業が機能移転し得る環境を整備したオフィス設備。入居する企業と大学、地元企業、地域住民がオープンイノベーションを進め、地域課題などの解決に協働する取り組みとして注目されている。コスモエネルギーグループは、コスモエコパワーが会津若松ウインドファームを運営するなど、同地と所縁がある。